

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年8月)

～先行き見通しは小幅に改善も、地政学リスクへの不安高まる～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が4か月ぶりに低下した一方、先行き判断は2か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、猛暑で気温が例年よりも高めに推移し、エアコンなどの家電、飲料関連といった季節商材の販売増加につながったほか、インバウンドによる消費も引き続き堅調に推移した。ただし、かねてからの消費者の節約志向は根強く、さまざまな業界で販売量や客単価への影響が出ている。
- 先行きについては、関東方面での天候不順による影響もあり、今後の野菜価格の上昇が懸念されるものの、インバウンド関連は引き続き前年を上回ると予想されている。また、今年は残暑がさほど厳しくなさそうとの見方もあり、秋商戦への期待の声も聞かれる。
- 一方、北朝鮮情勢をはじめとする地政学リスクの高まりを受けて、先行きへの不安の声が強まっている。観光関連などでは、具体的な悪影響を懸念する声も聞かれる。

「猛暑・季節商材」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(マネージャー)	・今月は猛暑となったが、京都地区は天候にも恵まれ、入店客数が前年を4%ほど上回っている。また、紳士、子供ファッション、リビング用品の売上も、前年並みに回復してきた。インバウンドの免税売上では、時計の需要が回復し、前年比で倍増している。美術品や時計、宝飾品などの高額商品の売上も20%増加するなど、富裕層の需要増も顕著である。
		百貨店(宣伝担当)	・売上、入店数共に好調である。特に、入店数は猛暑日が続いているほか、雨が少ないこともあり、前年比で7%増と大きく伸びている。アイテム別には、インバウンド売上のシェアが大きい雑貨、特選宝飾品だけでなく、婦人服、紳士服も前年を上回っており、インバウンド売上を除いた基調が回復してきている。
		コンビニ(経営者)	・猛暑の影響もあり、ドリンク類の売上が好調であった。また、イートインコーナーの利用率も相変わらず高く、コーヒーやファストフード類の売上も好調である。
		コンビニ(広告担当)	・西日本は雨が少なく、蒸し暑い猛暑日が続いている影響で、飲料、アイス、生鮮品などが売上に貢献している。根本的に大きな変化はない。
		コンビニ(店員)	・暑い日が続く、アイスや飲料水などの、プラス1品の購入が多い。
		タクシー運転手	・神戸では開港150周年ということで、各地で様々なイベントが行われている。それに加えて雨もそれほど多くなく、暑い日が続いているので、タクシーの利用が増えている。
		美容室(店員)	・猛暑続きのため、夏用のスッカリ系のシャンプーなどを追加購入する人が増え、頭皮のスパといった追加メニューのオーダーも増加している。
変わらない	一般小売店[事務用品](経営者)	・暑い夏となったが、商談は低調で、秋に向けても案件は少ない。	
	百貨店(商品担当)	・台風や暑さなどに苦戦している店舗はあるが、都市型店舗は免税売上が依然として好調である。売上が低めとなる8月には大きな力となり、全体を支えている。	
	百貨店(販促担当)	・来客数が前年割れとなっている。購買率や客単価は前年を上回っているが、客の減少で売上も苦戦している。衣料品が不振で、雑貨や食品関連が堅調という傾向も、前月までと大きな変化はない。関西の夏は暑いため、涼しさを感じられる食品が、好調に推移している。	
	スーパー(社員)	・当社が出店している地域では、例年以上に暑い日が続いており、夏物衣料や雑貨の動きが良い。堅調な食品部門と合わせて、全体の販売数量は増えている。	
	コンビニ(店員)	・暑さの影響で、飲料や冷たい物がよく売れている。夏休みでもあり、来店する客にも家族連れなどが多い。	

家計動向関連	変わらない	家電量販店（経営者）	・猛暑効果でエアコンなどの動きは良いものの、夏物家電以外の動きが悪く、販売増につながらない。
		一般レストラン（経営者）	・飲食店は天候に左右されやすいほか、暑さが厳しい昼間は、近くの商店街にも人通りはなく、来客数が伸びていない。
		一般レストラン（経理担当）	・回復ペースはやや緩やかになりつつも、関東での集中豪雨や、関西の猛暑などで客足は失速しており、消費動向に陰りがみられる。
		タクシー運転手	・暑さによる利用はあるが、企業には忙しい雰囲気のみみられない。
		タクシー運転手	・猛暑日が続くなか、天候不順などにより 客の乗車機会がやや増えている。
	なっている	やや悪く	一般小売店〔時計〕（経営者）
企業関連	変わらない	食料品製造業（経理担当）	・猛暑の影響はあるが、売上の推移は前期比で横ばいとなっている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・猛暑の影響もあり、駅ナカではソフトドリンクを中心に、飲料が前年を大幅に上回る勢いで売れた。ただし、客足はやや低調に推移している。

「北朝鮮・世界情勢」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（マネージャー）	・北朝鮮の動向など、先行きは不透明であるが、インバウンドや富裕層の需要増に加え、中間ボリューム層の現金売上が入店客数の増加と共に上向くことで、秋物ファッションなどが回復すると期待している。	
		百貨店（マネージャー）	・米国や北朝鮮問題など、海外情勢に不安要素があるものの、日本国内においては、有効求人倍率がバブル期を上回るなど、消費が若干活性化する要素がみられる。訪日外国人の売上も、トレンドが変化してからまだ一巡しないこともあり、前年比では好転する。	
		家電量販店（企画担当）	・有機ELテレビの販売が年末に向けて増えるものの、北朝鮮と米国の今後の動向に、景気の先行きは左右される。	
		通信会社（企画担当）	・北朝鮮情勢への懸念もあるが、今後の景気回復に期待したい。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・海外情勢などを考えると、購入マインドが高揚するような状況ではない。	
		百貨店（商品担当）	・東アジア情勢の緊張や政権の不安定さ、米国景気の鈍化などを受け、日本経済も不安定な動きが予想される。また、中国からの旅行者による消費への悪影響も懸念される。	
		百貨店（販促担当）	・消費の慎重な動きを変えるきっかけが見当たらない。海外の不安定な情勢も、万が一の動きがあれば大きなマイナス要素となるが、具体的な実感は薄く、大きなマイナスにはなっていない。今後は価格ではなく、価値を見出せる商品を提案していく。	
		百貨店（売場マネージャー）	・世界情勢に不安要素がある。円高が進めば、現状は好調なインバウンド需要にも影響が出るため、楽観はしていない。特に、衣料品については厳しい状況が続く見通しであり、顧客情報の活用の強化で、前年の水準の維持を図りたい。	
		スーパー（経営者）	・地政学リスクの高まりや、東日本を中心とした雨による農産物の不作、黒潮の南下による不漁などが予想され、生鮮品を中心に売上の不振が予想される。シルバーウィークも前年に比べて曜日周りが悪く、盛り上がりにつけてくと思われる。また、大手を中心に更なる単価の引下げ報道も相次ぐなか、売上が伸び悩み、利益の確保も困難となる。さらに、パートの人件費増も負担となる。	
		都市型ホテル（管理担当）	・北朝鮮からの日本に向けたミサイルの発射が今後も続けば、アジアのインバウンドの受注にも悪影響を与える可能性があり、注意が必要である。	
	やや悪くなる	コンビニ（広告担当）	・北朝鮮や米国などの地政学的な問題のほか、猛暑やゲリラ豪雨に伴う不作や値上げなどによる物価上昇など、不安定な要素の影響で悪くなる。	
		乗用車販売店（経営者）	・北朝鮮のミサイル問題や米国での政権の行き詰まりなど、海外での不安要素が多い。国内的にも、人手不足による人件費の高騰など、中小企業が事業を続けていくための環境が悪くなっている。今後、政府の進める働き方改革でも、企業の負担が増えるほか、消費も低迷する。	
		観光型旅館（管理担当）	・北朝鮮のミサイル実験、獣医学部新設問題、国有地売却関連の問題など、政治不信や不安感が増大し、先行きの読めない状況が続いている。米国の政治も混乱しており、不安要素が大きい。	
		都市型ホテル（客室担当）	・インバウンド頼みの傾向にあるなかで、不安定な世界情勢や新規ホテルの開業もあり、先行きは不透明である。	
	企業関連	変わらない	旅行代理店（支店長）	・大きなトピックスはないが、北朝鮮からの地域を絞った攻撃の発言により、客の旅行マインドに影響が出ている。特に、修学旅行や教育旅行では、行先の変更の話などが出ており、状況としては良くない。
			食料品製造業（経理担当）	・北朝鮮のミサイル問題や天候の激しい変動などで、漠然とした不安は感じるが、大きくは変わらない。
電気機械器具製造業（経営者）			・日本の周辺国や米国の動きが読めず、景気が急変しないか心配である。	
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・北朝鮮による地政学リスクが一掃されなければ、株価が2万円を超えて、更に上昇する動きにはならない。今後もすっきりしない景況感が続きそうである。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15				16								17												
		月 8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
現 状 判 断	近畿	51.9	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6
	(全国)	50.2	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7
先 行 き 判 断	近畿	49.0	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0
	(全国)	49.5	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1